霧が丘六丁目地区

多世代が快適に暮らせる
魅力をつくるまちづくりプラン

霧が丘六丁目まちづくり推進会

平成 28 年 7 月

目次

	はじめに	
	霧が丘六丁目地区　対象位置関係図	
第１章	霧が丘六丁目地区のまちづくりの現状と課題	1
1	霧が丘六丁目地区のまちの誕生	1
2	霧が丘六丁目地区のまちの状況	2
3	霧が丘六丁目地区のまちの課題	4
第２章	霧が丘六丁目地区のまちづくりプランの内容	7
1	歩行者空間	9
2	住民の交流と集える拠点	11
3	交通	13
4	自然環境	14
5	防災	16
6	安全・安心	18
	プラン策定の経緯	19
	新しいまちづくりの始まり	21

はじめに

私たちが住む霧が丘六丁目地区（霧が丘六丁目自治会の区域）は、近隣に緑豊かな森もある暮らしやすいまちです。道路も整備されています。地域内のほとんどの場所が、店舗などの出店も制限されており、敷地をある程度広く確保した住宅が整然と並んでいます。公園には花が美しく植えられ、家の前を草花で飾る人もたくさん居ます。

私たちのまちが生まれてから 30 年以上が経ち、まちの姿には変化もあります。子どもの数も減り、地域の中核施設だった旧霧が丘第一小学校はなくなりました。働き盛りだった住民の多くが高齢期に差し掛かり、一方、まちの中の菜園やクリ畑は、ほとんどが新しい家に姿を変えました。新しく出来た家に住む若い世帯は、共稼ぎの家庭も多く忙しそうにしています。

こうした典型的な郊外型住宅地であるまちを、新しいライフスタイルや世代構成に適したまちづくりで、若返りをはかりつつ、人々が自発的に活動できる場を設け、それがまちを生き生きと輝かせる、そんな仕組みづくりや場づくりをどのように行っていくのか。それがこのまちづくりプランのテーマです。

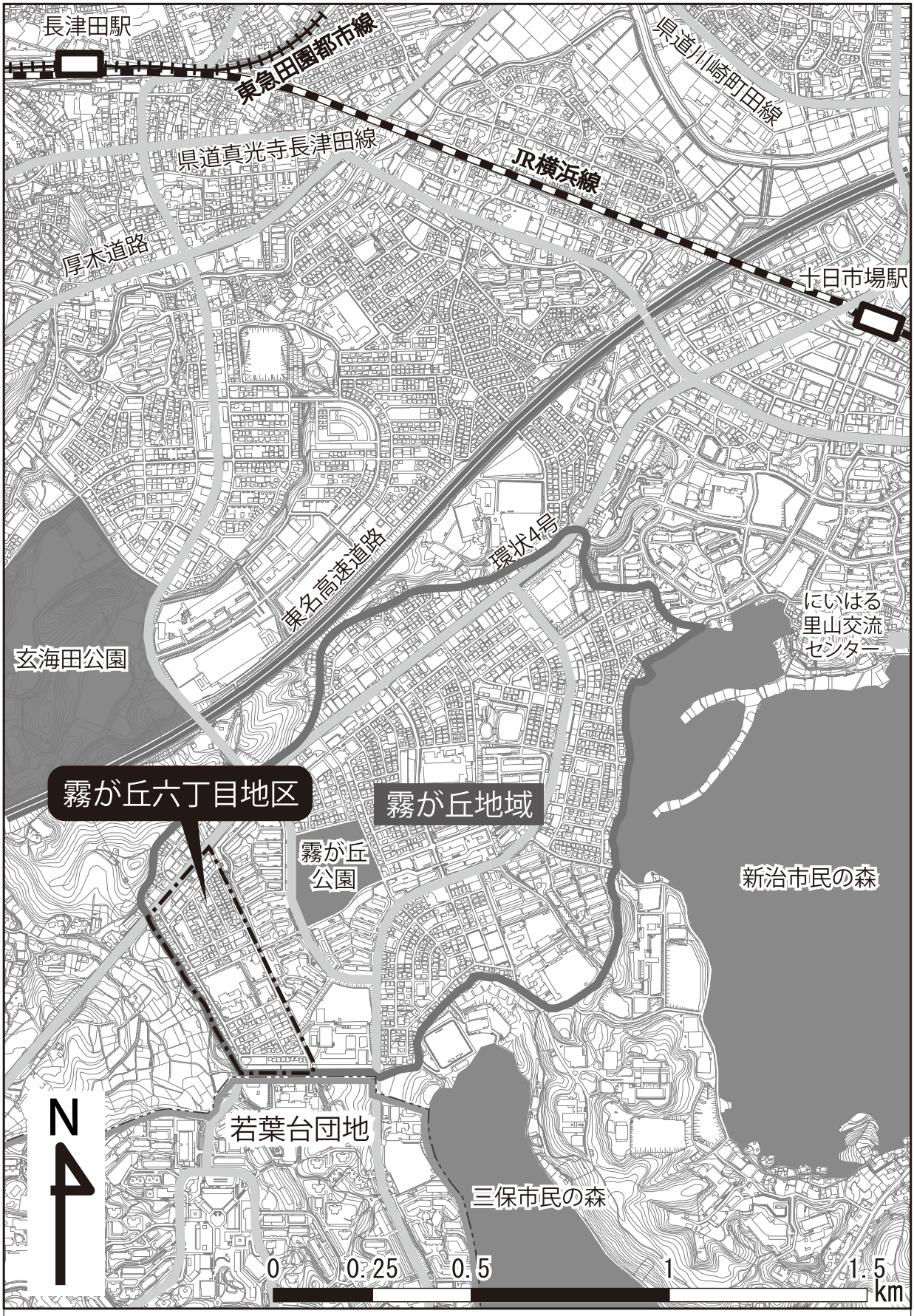
まちに新しい息吹を呼び込むためには、「子育てがしやすい」「高齢になっても安心」「様々な地域活動がしやすい」「暮らすのに便利」などの新しい地域ニーズに応える機能とともに、まち全体によき変化をもたらすような活動の場が必要であると考えています。

現在未利用となっている、当地区の地域中核施設であった旧霧が丘第一小学校は、この役割を担う場として有効であると考えられます。機会を捉えて、他の霧が丘地区等と協力しながら、今後の活用事業体や、周辺を含めた地域で活動する団体や個人などと協議し、住民主体で活用できるよう働きかけます。霧が丘六丁目という小さな街がこの大きな課題に取り組むためには、自分たちだけの閉じた関係性のなかで解決するという発想ではうまくいきません。幸いなことに霧が丘六丁目は、先進事例が集積されている若葉台地区、新しい子育て世代の街である長津田南部、横浜北部最大の森・新治市民の森、三保市民の森など豊かな自然環境などの多様な地域資源が交差する、恵まれた場所にあります。近隣で様々な活動をする団体もあります。これら周辺地域のさまざまな地域資源や人的資源とまちを結びつける大きな視野に立ち、こうした地の利を活かし、境界を越えての連携による共生社会を築いていこうではありませんか。

住むだけのまちから、「住＋α」が生まれるまちへ。閉じたまちから、開かれたまちへ。そしてこれから始まる少子高齢化の時代に、選ばれるまちになるために、この小さなまちの取り組みが新しい未来へ向けて発信できる魅力的な社会的・文化的価値を生み出すことにより、当地区のまちづくりが郊外型住宅地活性化のモデルとなるよう目指します。

※「このまちづくりプランの中で使う“霧が丘六丁目地区”とは霧が丘グリーンタウンを除いた霧が丘六丁目自治会のエリアを指しています。」

霧が丘六丁目地区　対象位置関係図



霧が丘六丁目地区区域（霧が丘六丁目自治会の区域）　霧が丘地域　区境

若葉台団地　市民の森、公園　幹線道路　JR 横浜線　高速道路　東急田園都市線

第１章　霧が丘六丁目地区のまちづくりの現状と課題

1　霧が丘六丁目地区のまちの誕生

霧が丘六丁目地区は、旧日本住宅公団が大都市の激しい人口の集中による住宅地の不足を解消し、生活に必要な施設及び設備の整った良好な市街地を作る目的で始めた「横浜国際港都建設事業」の一環で開発された霧が丘地域の中の一地区として誕生しました。当地域の開発手法としての霧が丘土地区画整理事業は、旧住宅・都市整備公団資料によると、昭和 43 年に始まり、換地処分等を経て昭和 54 年には住宅の建築が始まりました。開発以前は、霧が丘地域の住戸は僅かに７戸で、霧が丘という地名も無く十日市場町と長津田町に属していました。

開発では、歩行者専用道路を霧が丘地域の動線として配置し、まちの中で日常生活がほとんどまかなえるように、スーパー、保育所、診療所、郵便局、派出所などを作り、小学校は地域内の子どもが、その歩行者専用道路を使用して登校できるように計画されました。

昭和 51 年には霧が丘高校が、昭和 54 年には霧が丘で一番最初の小学校として霧が丘第一小学校が開校しました。昭和 60 年代から平成 20 年代にかけて徐々に世帯数も増加し続け、霧が丘六丁目地区の人口は 310 世帯、750 名（内 65 歳以上 120 名、70 歳以上 100 名）（2014 年 12 月自治会集計）となっています。

昭和 50 年霧が丘六丁目

昭和 54 年霧が丘六丁目

平成 27 年霧が丘六丁目

2 霧が丘六丁目地区のまちの状況

まちの魅力①（地域活動）

霧が丘六丁目では、周辺町内会や学校などと連けいする四季折々のイベントが開催され地域活動が盛んです。子供会も公園掃除で地域に貢献する活動を行っており、近年では地域の子育てが終わった世代と子供会との交流イベントも始まりました。こうした人と人をつなげて行くような活動も、地域を暮らしやすいものにしています。

まちの魅力②（地域資源）

霧が丘地域は昭和 50 年代以降、自主協定を運用するなどして良好な住宅地を維持してきました。中でも、霧が丘六丁目地区は、緑や花が豊かな住宅地です。霧が丘地域周辺には、横浜市北部で最も大きな市民の森である新治市民の森 (67.2ha)、三保市民の森 (39.5ha) があり、大都市圏に残された里山として貴重な環境資源であり、そこには箱根、丹沢に次ぐほどの生物多様性に富む豊かな里山型の自然環境が保持されています。

霧が丘地域の周辺にはこのような豊かな環境資源があり、かつてはこのような里山の風景のなかからわたしたちの街が生まれたことを思い起こす文化資源でもあります。これら、新治、三保、若葉台北部と地続きの土地であるメリットを意識した、特色ある街づくりの可能性が広がります。

また、霧が丘地域周辺には教育・医療・介護サービスの提供等を行っている施設が多数あります。例えば近隣には総合病院が 2 か所あります。その他、若葉台や十日市場駅、長津田駅周辺にも診療所があります。これらの社会的施設はともに地域を構成し、支えあっている関係にあります。これらの関係をまちとして意識的に整理して、より利用しやすいかたちを探りながら、必要な連携を構築していくことが大切です。

まちの変化

開発から 30 余年を経て、全体的に高齢化する一方、一部では土地が再分割され、新しい住宅が建築されることで、多少人口が増えている面もあります。しかしこのことにより、樹木等の緑のある未利用地や区画整理地内農地が相続等で売却され、分譲地として細分化されて、開発による緑の減少が見られます。

そして霧が丘第一小学校が廃校になったことで、地域の活動拠点が減り、世代の交流などに不便を感じるとともに、災害時の身近な避難場所にも不安を感じるようになりました。

また、開発時から住んでいる住民が高齢化し、開発時には想像もできなかった高齢化社会を迎えて、車椅子での移動を想定した街づくりになっていない事、高齢になり車を使えなくなった時に身近で買い物できる場所がない等の問題を抱えています。

したがって、日本全体が少子化の道を辿り、新たな住宅の需要の減少が予想される中で、最寄り駅までバス便で接続する必要のある霧が丘六丁目地区で、住民が安心安全で快適に暮らしていくためには、高齢者が暮らしやすい街を作ると共に、働きながらでも子育てのしやすい街に転換する事、交通の利便性の向上をはかる事等も今後一層必要になると思われます。

霧が丘六丁目地区　地域資源図

3 霧が丘六丁目地区のまちの課題

霧が丘六丁目地区は、区画整理による整然とした街並みを形成していると共に、隣接する市街化調整区域は、農地や樹林地が保存されている、静かで美しい生活環境のなかにありますが、課題も多く挙げられます。以下はワールドカフェ、まち歩き、アンケート調査などにより住民から出た意見です。

歩行者空間の安全など

車椅子や自転車、ベビーカーでは通りにくい道があるわ。

散策途中でのベンチなど休憩場所があれば良いのにね。

うちの前の道は、抜け道になっていて、車がブンブン通って怖いです。

住民が集える拠点

ちょっとお茶のみできるところが欲しいです。

この辺は買い物や食事をする場所が少ないよね。

もっと近くで働く場所があれば良いのに。

うちはそのうち空き家になってしまうのかしら？

公園が草木公園だけだからもう少し近くに集まれる場所がほしい。

第一小学校が廃校になったから、やっぱり地域活動はしにくくなりました。防災訓練なんかも昔はやっていたのにね。

少子化による労働人口や社会の担い手の減少は？

自治会活動だって、だんだんきつくなってきたし…

自治会や子供会の活動をする場所もありません。

交通の利便性

駅までバスだと渋滞にあったらもうアウトだわ。

若葉台まで買い物に行くのに、結構車が危ないのよね。道が繋がったら良いのにね。

学校や病院・福祉施設などと、まちづくりの連携がもっとできれば良いのに。

自然環境

このごろこの辺も緑が少なくなってきているよね。

緑の管理や手入れも大変。

安全・安心

この間の夜、あそこで女の人が車に引きずり込まれそうになったんですって。

高齢世帯や一人暮らしも増えていて心配。

防災

消火栓の配置を見直しては？

大地震があってガスや水道、電気が止まったらどうすればいいの？

課題のまとめ

1 歩行者空間の安全

•車の通り抜けなどで危ない道がある。
•車椅子やバギーなどでは通りにくい道がある。
•通学や買い物などで横断するのに危ない道がある。
•散策途中などに休憩できる場所が必要である。

2 住民が集える拠点

•第一小学校が廃校になったあと地域活動などで集まる拠点がない。

3 交通の利便性

•高齢になると車がつかえなくなる人もいて買い物などに行きやすい交通が必要である。（コミュニティバスなど）

4 自然環境

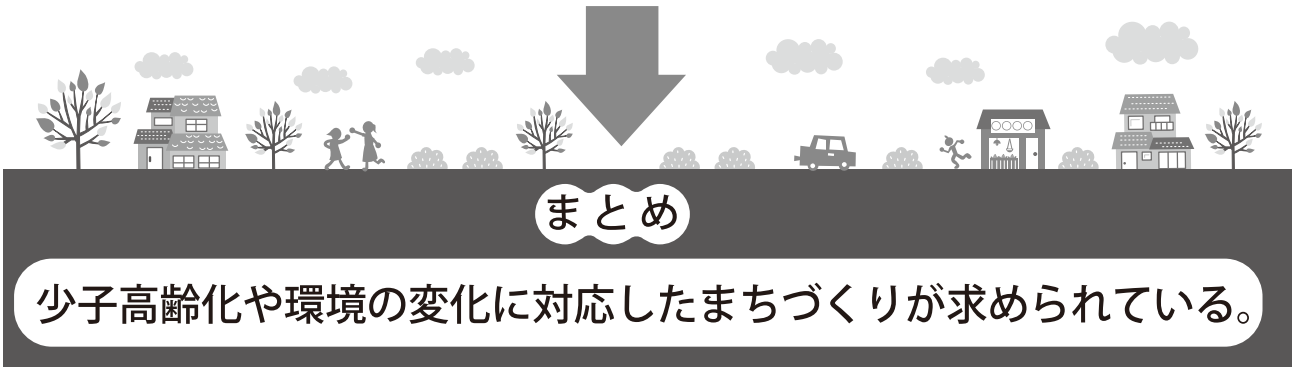
•緑の減少の問題がある。
•一方、緑の管理や手入れの問題もある。

5 防災

•大地震などへの備えは必要である。

6 安全・安心

•高齢化も進み、安全・安心なまちは重要である。



霧が丘六丁目地区　課題図

区域　　歩行者専用道路

まちづくりの目標

『周辺地域とのつながりを大切にしながら、安全の確保と利便性の向上による住宅地の再生を行い、多世代が快適に暮らせる魅力あるまちをつくります』

私たちのまちが抱える課題は、その多くが、都市の急増する人口の受け皿として作られた他の多くの郊外型住宅地と共通します。しかし、これを流れに任せず、旧霧が丘第一小学校をはじめとした低未利用地などの活用の機会を捉えながら、コミュニティーの活性化を図ります。そしてこれを推進力として、地区内にとどまらず、地区外における様々なつながりを強め、多世代が安心に快適に暮らせるまちづくりをします。目標達成に向けた具体的な方針をそれぞれ次頁以降に定めます。

課題

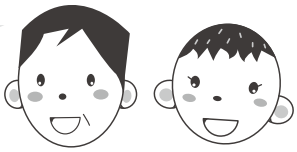
① 歩行者空間
② 住民の交流と集える拠点
③ 交通の利便性
④ 自然環境
⑤ 防災
⑥ 安全・安心

→

対策の視点

○住宅地の再生
・安全の確保
・利便性の向上
○新たなゆるやかなつながり
・旧霧が丘第一小学校等
　未利用公共地の活用に係る調整
・未利用民有地の活用に係る調整
○今ある魅力の継承
・身近にある花と緑
・地域の活動

住むだけのまちから
住むプラスαのまちへ



多世代が快適に暮らせる魅力あるまち

まちづくりの目標図

霧が丘二丁目公園
UR霧が丘グリーンタウン
霧が丘6丁目
長津田とのつながり
住宅地の再生
安全の確保
利便性の向上
新たなゆるやかなつながり
未利用民有地の活用に係る調整
今ある魅力の継承
身近にある花と緑
地域の活動
霧ヶ谷公園
霧が丘西側
UR霧が丘グリーンタウン
霧が丘六丁目
Kirigaoka6
霧ヶ谷橋
霧が丘地域内との
つながり
草木公園
幼稚園との交流
旧霧が丘第一小学校
県立霧が丘高等学校
高校との交流
新たなゆるやかなつながり
旧霧が丘第一小学校や草木公園 等
霧が丘六丁目
Kirigaoka6
住宅地の再生
安全の確保
利便性の向上
新たなゆるやかなつながり
未利用地の活用に係る調整
今ある魅力の継承
身近にある花と緑
地域の活動
N
交通局若葉台営業所
若葉台
若葉台団地とのつながり
0 25 50 100 150
m

1 歩行者空間

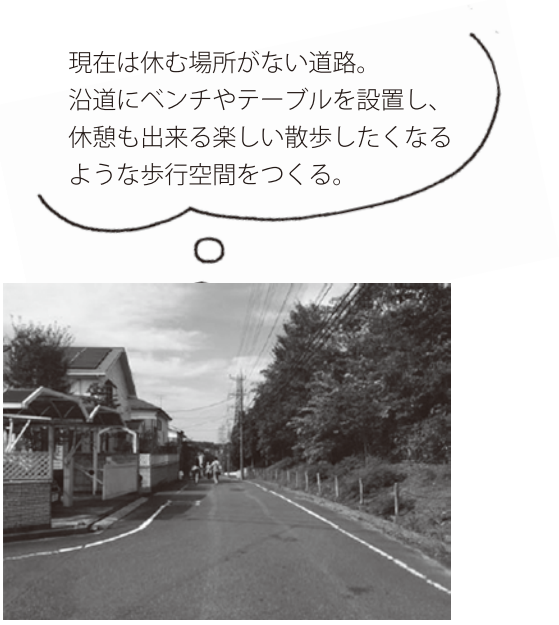
子どもも高齢者も、子育て世代でも地区内を安全・安心に歩行できるだけでなく、人と人が関わりを作っていけるような、歩いて楽しい空間や休憩場所づくりを目指します。

1 花植え

草木公園などで自治会が取り組んでいる花植えを歩いて楽しい空間にするためにさらに広げます。

2 バリアフリー

今後の住民の高齢化に対応するために車椅子が利用しやすく、また若い世帯が住みたくなるまちを作るためにベビーカーでも移動がしやすい歩行空間を土木事務所等と調整しながら検討します。



3 休憩ベンチの設置

歩行者道路の沿道及び高圧線下などの未利用地に地権者の許可を得てベンチやテーブル等を設置し、人が集まれる場所、休憩できる場所を作ります。

公道における歩行者の休憩ベンチの整備については、地域住民及び行政の協力を得ながら 実現を目指します。

4 通学路

小中学校までの通学路を点検し、児童・生徒の安全を図ります。又、「子ども 110 番の家」の表示や周知の徹底などを合わせて検討し、スクールゾーン協議会とも情報共有に努めます。

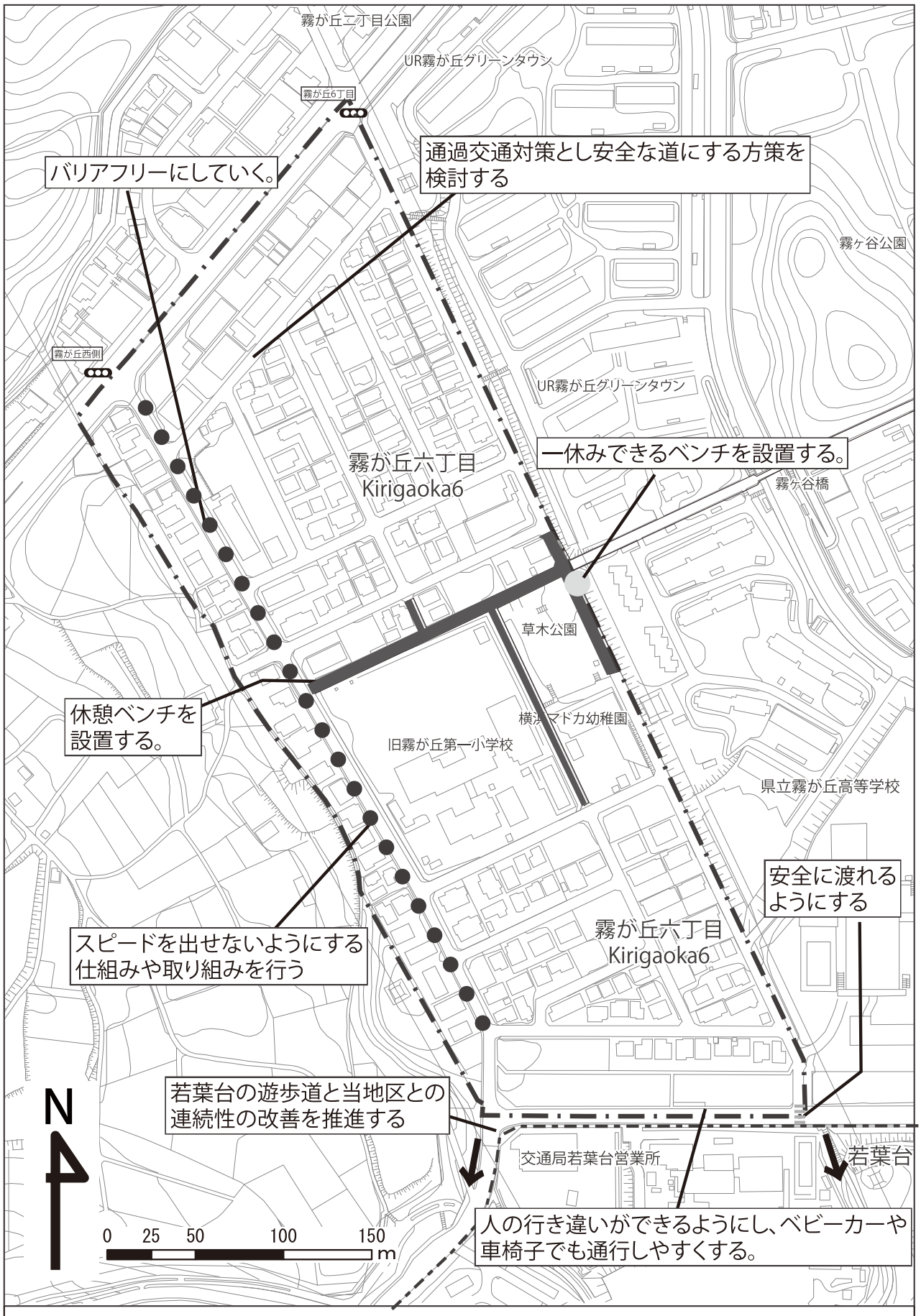
5 通過交通対策

交通安全のため、通過車両の多い朝夕の時間帯で交通規制を行うなどの対策を警察等と調整しながら検討します。

6 遊歩道の連続性の改善

若葉台の遊歩道と当地区との連続性の改善を推進します。そのことで若葉台に安全に行けるようになり買い物、通学の安全が確保されることになります。

歩行者空間　方針図


霧が丘二丁目公園
UR霧が丘グリーンタウン
霧が丘6丁目
通過交通対策とし安全な道にする方策を検討する
バリアフリーにしていく。
霧ケ谷公園
霧が丘西側
UR霧が丘グリーンタウン
一休みできるベンチを設置する。
霧が丘六丁目
Kirigaoka6
霧ケ谷橋
草木公園
休憩ベンチを設置する。
横浜マドカ幼稚園
旧霧が丘第一小学校
県立霧が丘高等学校
安全に渡れるようにする
スピードを出せないようにする仕組みや取り組みを行う
霧が丘六丁目
Kirigaoka6
若葉台の遊歩道と当地区との連続性の改善を推進する
N
交通局若葉台営業所
若葉台
0 25 50 100 150 m
人の行き違いができるようにし、ベビーカーや車椅子でも通行しやすくする。
区域
歩行者専用道路
地区内の主要な道路

2 住民の交流と集える拠点

歩いていける範囲に活動できる場所があることは、大切な「暮らしやすいまち」の要素です。旧霧が丘第一小学校を始めとして、できるだけ多くの様々な立場の住民が、集い活動できる新たな交流や拠点作りを目指します。

1 活動の企画

地域のコミュニティーを活性化するための広域的なイベントや福祉活動、スポーツ活動など、現在ある活動に加えて新たな地域活動に対応した企画を推進します。

高齢になっても孤立せず顔の見える関係づくりが行えるよう、庭先など歩いて行ける範囲でカフェなどイベントを開催します。

近隣農家や家庭菜園で収穫した野菜や手作りの惣菜など、個人や地元・地域内の人々が持ち寄って、地域循環型の市場の設置（例えば第一小マルシェという市場）の可能性も検討します。

活動拠点としては庭先などマルシェやカフェが開けそうな場所を検討しています。

また新たな地域活動拠点として利用するため、旧霧が丘第一小学校については、以前のように地域開放部分の提供を働きかけます。

草木公園なども地域のイベントなどでの利用を図ります。

旧霧が丘第一小学校

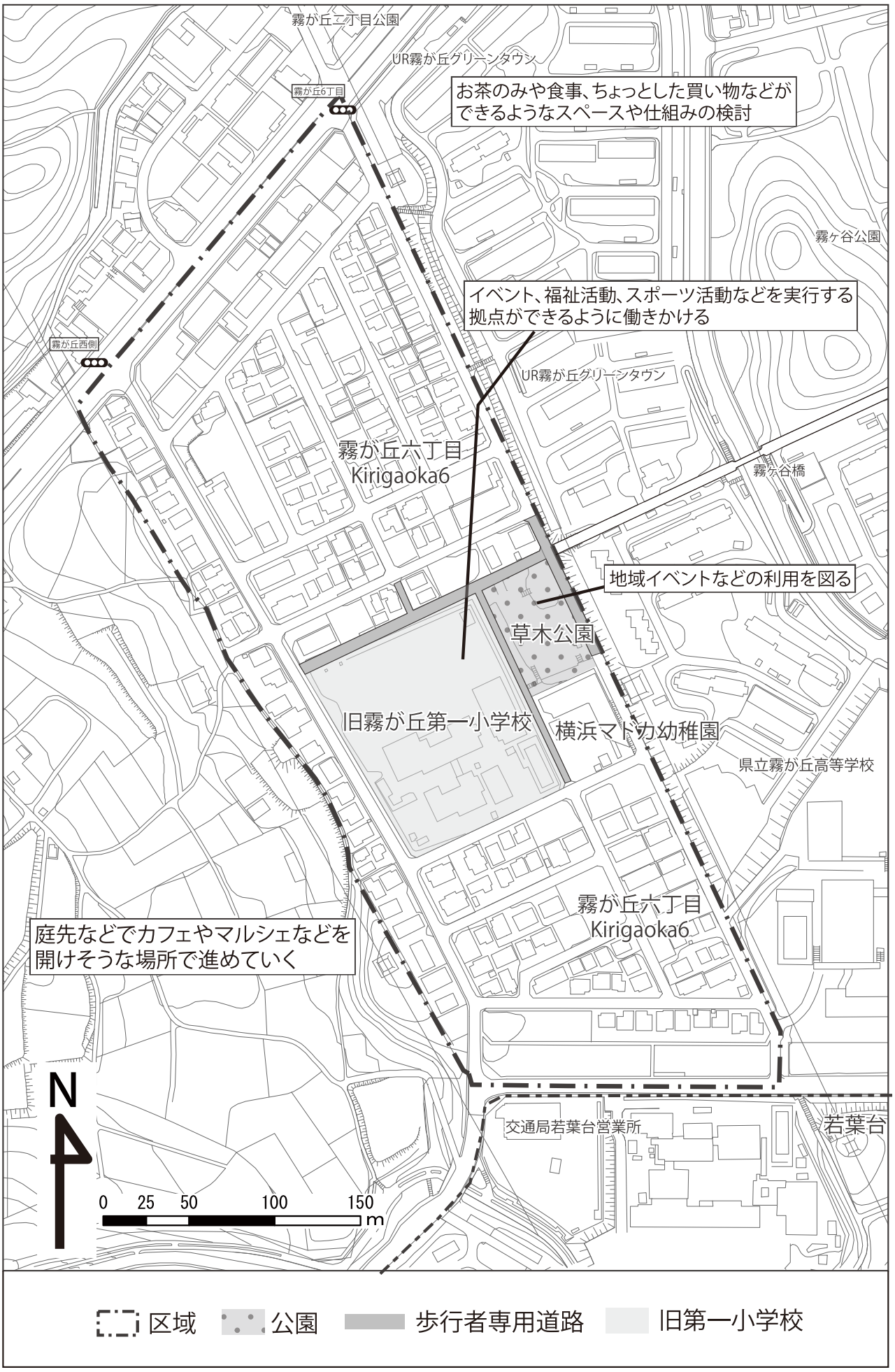
2014 年に行った思い出祭り
（アートサイトイベント）

住民のお花見

2 活動の担い手

旧霧が丘第一小学校を活用する事業体や周辺企業、ＮＰＯ法人など、自治会エリアを超えた多様な担い手と共に活動を行います。

住民の交流と集える拠点　方針図



3 交 通

高齢になると車を使えない人も増えてきます。環境への配慮も含め、車に代わる交通アクセスの充実と利便性の向上を目指します。

1 環境配慮

当地区は駅からバスで 10 分から 15 分程度の距離のため、渋滞に遭いやすいバスや車だけでなく、自転車のシェアリングなど、より環境に優しいその他の交通手段を確保して当地区の魅力を高めます。

車の相乗りを積極的に行います。

2 駐車場の確保

住宅地の中に訪れる人のための駐車場も無いため、やむなく行う路上駐車を解消する為のコインパーキングなどの設置を働きかけます。

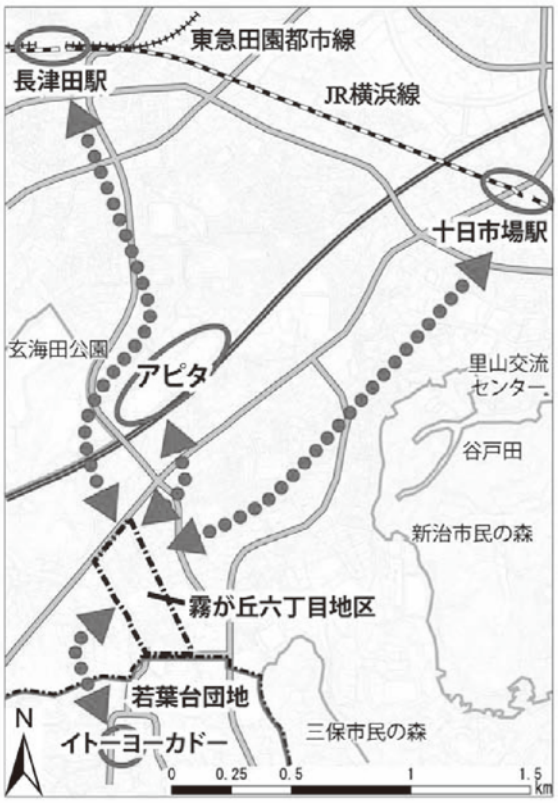
3 バス路線の充実

長津田駅前広場の整備による交通利便性の充実に合わせて、JR と田園都市線が利用できる長津田駅方面のバス路線の充実を周辺地域と連携してバス事業者に働きかけます。

また、若葉台地区内を走るコミュニティバスの延伸や、イトーヨーカドーや長津田みなみ台のアピタを結ぶ新たな地域の足（コミュニティバス）の導入等を働きかけます。

若葉台方面から霧が丘六丁目を通り、長津田方面へつながる道路

交通参考図



4 自然環境

地区内の豊かな自然環境を保全活用し、周辺の自然とのつながりを考えていきます。

1 緑の維持管理の支援

宅地内の庭木や生垣の維持管理の仕組み作りに取り組みます。例えば現在活動している剪定ボランティアとの連携など、ボランティア等による支援体制の充実を推進します。

地区内唯一の街区公園である草木公園は、地域の貴重な資源として、現在ある公園愛護会を中心に地域住民で協力しながら保全管理を図ります。

自治会で続けてきた花植えなども継続します。

旧霧が丘第一小学校敷地内の自然環境は、その保全と生物多様性に配慮した有効活用ができるよう、活用事業体に働きかけます。また、その保全活動に協力します。

2 緑や花を増やす活動の推進

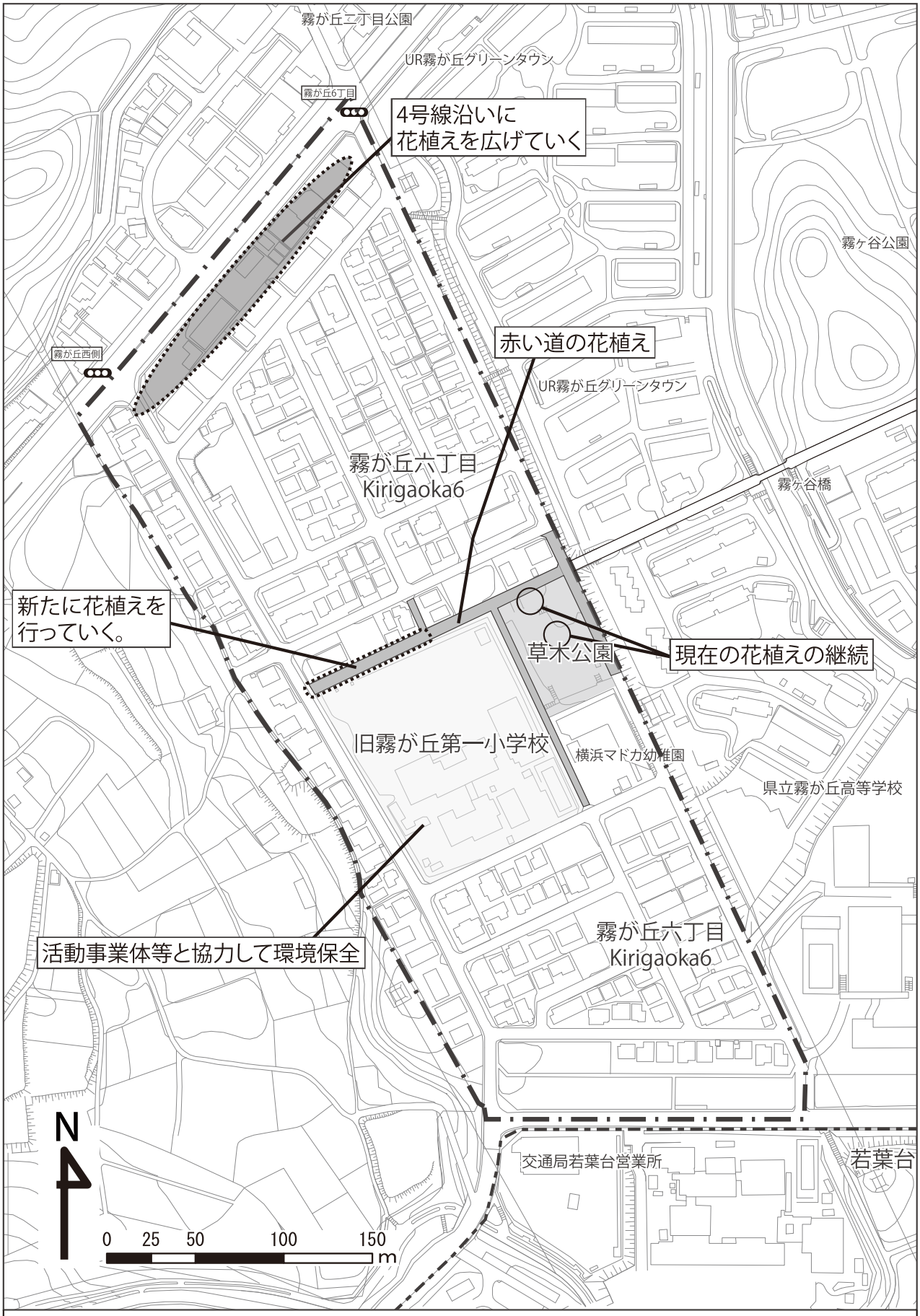
赤い道を、花や実のなる木を植えるなどして自然を楽しむ場になるようにします。

幹線道路の植樹帯や住宅地の空きスペースを活用するなど、地区内の緑や花を増やしていきます。地区内の商店にも協力を呼び掛けていきます。

3 周辺地区とのつながり

三保地区、新治地区などの近隣の豊かな自然とのつながりを活かし、地域で活動している自然環境保全 NPO や愛護会などとつながりながら、地続きの自然を実感できるような地区内の緑化や花を増やす取組みを行います。

自然環境　方針図



区域　花植え　歩行者専用道路

5 防　災

災害に強いまちを目指し、自助共助のまちづくりを検討します。自治会の防災活動を積極的に支援していきます。

1 災害への備えの呼びかけ

災害時の対応について、各世帯における備蓄 の必要性を啓発・促進します。

各世帯で災害時における非常用トイレの確保を推進します。また地域でも災害時のトイレについて今後検討をしていきます。

各家庭に雨水タンクを設置するなど災害に備えます。

2 避難体制

ひとり暮らしの高齢者や要援護者の世帯が円滑に避難できるように避難体制を整備します。

避難所への移動方法などあらかじめ地区内で共助の周知を図ります。

定期的に避難訓練を行います。

3 住民による消火活動

大災害発生時などで市の消防活動が望めない場合に、既存の地区内１５カ所の消火栓を使用し、地区全体をカバーできる住民主体の消火活動を可能にします。消火栓が離れているところはホースを延長するなど工夫をしていきます。

広い場所が必要な消火栓利用の防災訓練を旧霧が丘第一小学校の跡地を利用して行えるよう働きかけます。

4 草木公園に防災機能を持たせる

草木公園のベンチをかまどベンチに変更し、毎年自治会で行っている親睦会開催の時の調理に利用し、災害時の炊き出し訓練を兼ねます。

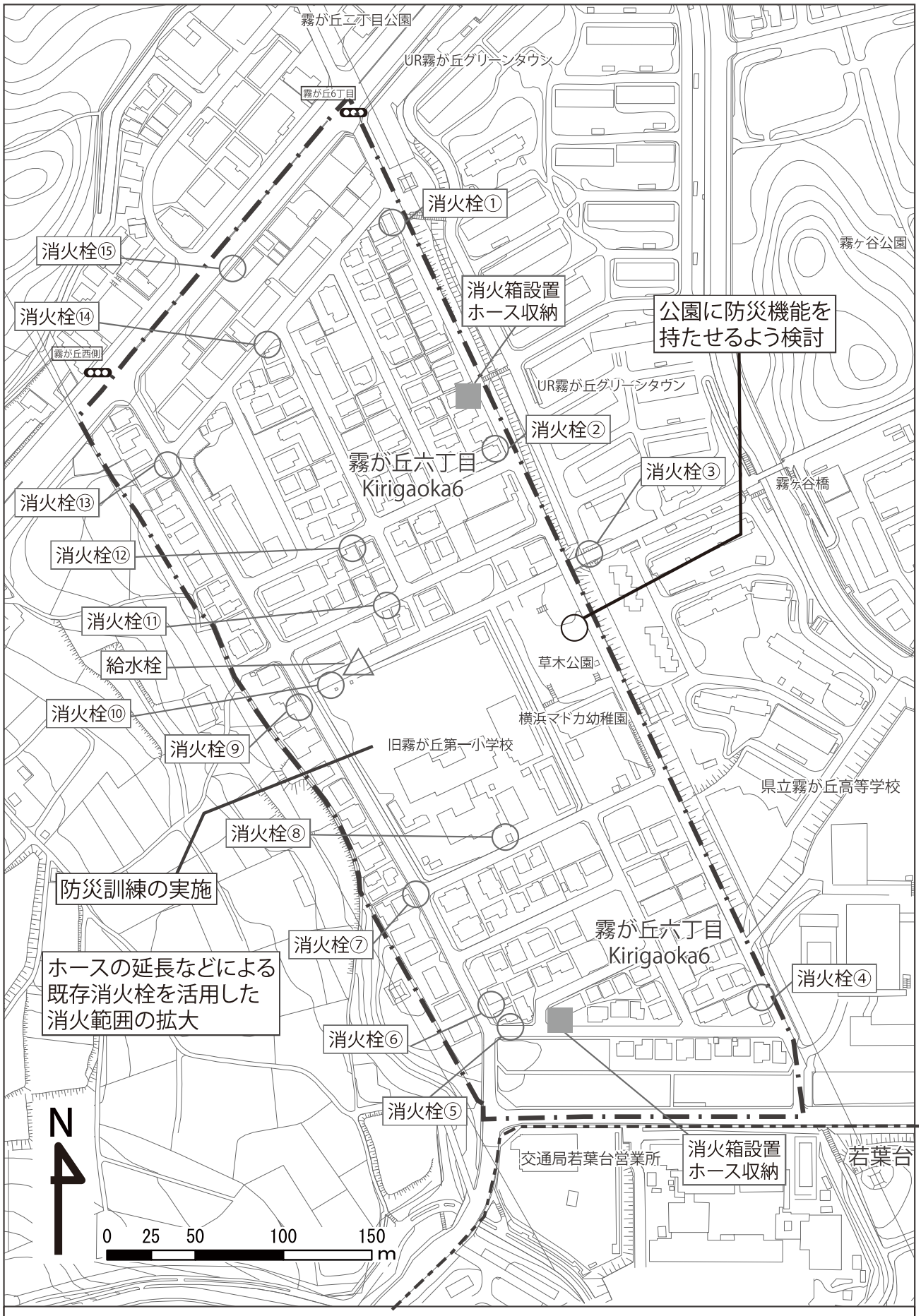
5 災害時の電源の確保

各家庭の屋根やガレージ、旧霧が丘第一小学校等において、太陽エネルギー等を活用した災害に強い非常用電源の確保の可能性を検討します。

町内に設置された消火箱

旧霧が丘第一小学校跡地を利用した防災訓練

防災　方針図



区域　○ 消火栓（現況）　△給水栓（現況）

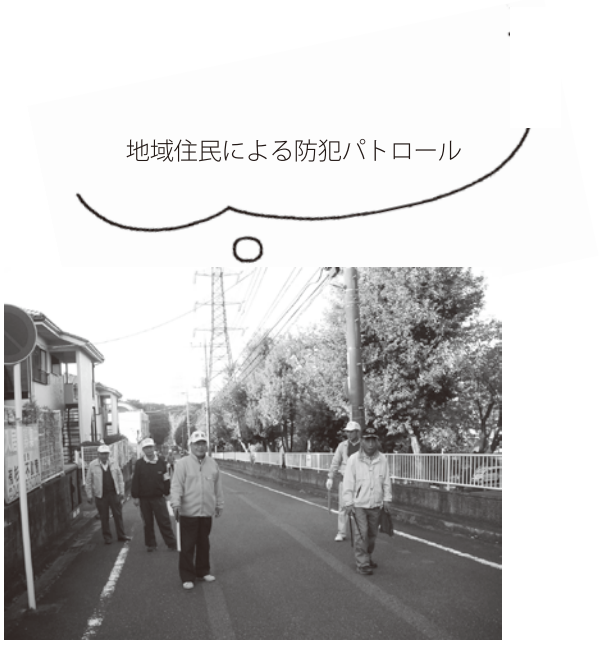
6 安全・安心

現在の安全安心なまちを持続させる活発な活動を続けていきます。

1 安全（危険箇所の把握と改善）

見通しの悪い交差点や暗い道などの危険個所をチェックし、地区内での情報共有を図ります。

安全対策が必要な箇所については、防犯灯の設置や路面標示などの対策を警察や区役所、土木事務所等と調整しながら検討します。



2 安心

高齢者や子ども及び女性も安心して暮らせるよう、小さな取組を大切にします。

住民の目が行き届いているという印象になるよう、ゴミ置き場を綺麗に保ちます。

簡易ソーラーシステム照明の活用や各家庭の門灯の点灯及びセンサーライトの設置を推奨します。

公園だけでなく個人の家も植栽をマメに手入れするように働きかけていきます。

現在地域でおこなっている防犯パトロールを更に推進し、きめの細かい防犯活動を行い、まちの安全安心に結びつけます。

3 助け合い

ひとり暮らしの方も元気かどうかわかるような隣近所の助け合いの輪を広げます。

日常のちょっとした困ったことを支援する仕組みの検討をしていきます。

プラン策定の経緯

私たちは霧が丘第一小学校の廃校ということをきっかけに、何気なく暮らしていたまちのことを考えるようになりました。その結果暮らしやすい便利で快適なまちを実現するためには、私たち住民が主体となってまちづくりに取り組むための指針となるまちづくりプランが必要と考えました。

みんなで街づくりクラブはその機運の中、設立され、活動を続けてきました。多種多様なまちの課題を解決し、より良い住環境や地区の特徴を生かしたものにしていきたいと様々な手順を踏んでプランを作成してきました。

以下にその経緯をまとめました。なお策定にあたっては自治会の方針や行政が定めた計画なども検討の内容に盛り込み検討していきました。

・霧が丘六丁目自治会　自治会の活動
・横浜市都市計画マスタープラン緑区プラン　緑区まちづくり計画
・緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」

みんなで街づくりクラブがワールドカフェやアンケートなどを実施して進めながら自治会とも相談した上で、霧が丘まちづくり推進会を作り、このプランを皆のものにしていきました。またプラン策定後に向けまちづくりの実現のために具体的な活動や検討を行っていくための組織作りも行ってきました。

平成 25 年 4 月　霧が丘六丁目自治会みんなで街づくりクラブの設立

平成 25 年 6 月ワールドカフェ

平成 26 年 3 月まちづくり講演会

意見交換会

平成 26 年 9 月　まちづくりプランの検討

みんなで街づくりクラブでプランの検討を始めました。

平成 27 年 11 月　まち歩きおよびアンケートの実施

この内容を盛り込んで、まちづくりプランを修正していきました。

平成 28 年５月　まちづくりプランに対する説明会

５月１５日（日）５月１９日（木）５月２１日（土）の３回説明会を行いました。

平成 28 年７月　最終意向アンケート実施

平成 28 年７月　まちづくりプラン策定

平成 28 年８月　霧が丘六丁目まちづくり推進会設立

霧が丘六丁目地区におけるまちづくりプランを作成し、実行していくために「霧が丘六丁目まちづくり推進会」を立ち上げました。

新しいまちづくりの始まり

本まちづくりプランは、多くの住民・ボランティア・各種団体・行政の協力により作成されました。それは、社会情勢が大きく変化する中で、私たちのまちを衰退から守り、新しい時代に適応させて、快適で魅力あるまちに再生させたい、という思いが大きな原動力になりました。

あらためて本まちづくりの意義を考えてみれば、少子高齢化という社会情勢の影響により、郊外型住宅地の多くが困難に直面していることが上げられます。その中で本まちづくりプランは、その解決策として横浜市の先進事例になると自負しています。このプランの実現は、暮らしている住民だけではなく、周辺の地域の魅力や快適性の向上に大きく役立つものでしょう。

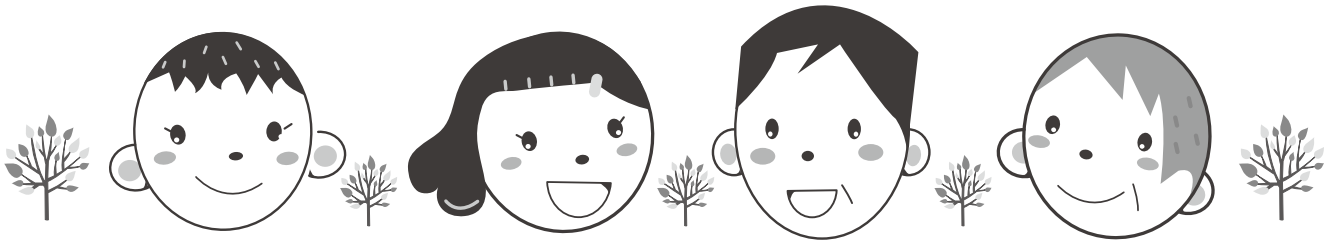
したがって、このプランの完成は、まちづくりのはじまりとなるものです。つまりこのまちづくりプランが実現して初めて、快適で魅力あるまちになるものです。

そのためには、暮らしている住民だけではなく、近隣の地域の方々、周辺の自治会、各種団体、関係する行政や企業の方々の協調と協力が必要となります。

また、旧霧が丘第一小学校や草木公園等のエリアについては、本地区の中心部にふさわしい、地域がゆるやかにつながれるエリアとしての役割を発揮し、地域のニーズにあった利用ができるよう引き続き検討していきます。

まちづくりプランの実現に向けて推進会は活動の輪を広げ、まちづくりの努力を続けていきたいと考えています。このプランから新しいまちづくりが、いま始まります。

皆で協力して霧が丘六丁目のまちづくりを一歩一歩進めていきたいと考えています。



霧が丘六丁目地区

多世代が快適に暮らせる
魅力をつくるまちづくりプラン

【連絡先】霧が丘六丁目まちづくり推進会

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘六丁目